



十勝組だより

第 3 9 号

2021 年
3 月 31 日 発行

発行：
十勝組長事務所
大樹町・光教寺内
(浄土真宗本願寺派)

発行人：
岩崎 教之
編集：
十勝組伝道広報部



2020 年
(令和 2 年)
から 4 年間、
新たな組長の
もと新体制が
始まりました。

組内各寺院の
みなさまには、
更なるご支援
ご協力をお願い
致します。

新組長 挨拶

十勝組組長

光教寺 岩崎 教之

― 暗雲ただよう船出 ―



事もしていません。歴代組長の足元にも及ばない、生来の面倒くさがりで、のんびり屋、がさつで無責任な者が何故選ばれたのか？この先が思いやられます。時に新型コロナウィルスが蔓延し世の中が混乱に陥る状況に於いて、十勝組もまさに暗雲ただよう船出となりました。

― 心強い布陣 ―

そんな私ですから、これからの組の運営は不安でしかありません。組長として最初に課せられた仕事でありました。その人事で三役全員を再任し、その不安を少しでも払拭しようと思いましたが、ところが、三浦氏の辞退の思いが固く、全員留任は叶いませんでした。そこで新たに平林氏を迎え、新三役を発足することとなりました。スーパージョイント組長の桃井氏、実践運動スベシャリストの石田氏・臼井氏、そして何よりも組長を二期務めあげられた千葉氏に会計担当副組長として残っていただけたことで、心強い布陣となったと思います。

― 新型コロナウィルス下 (禍) において ―

新型コロナウィルスの影響を受け、組の活動も休止や、縮小を余儀なくされています。その中、「新しい生活様式」に対応すべく新たな伝道の試み」を模索して取り組んだ、研修部所管の『特別法座』『僧侶研修会』に於ける Web の活用、青少年キッズサンガ部の YouTube 伝道はこれからの活動に大いに期待できるものであります。

― 親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要 ―

任期中の大きな組長事務としては、二〇二三年三月より勤修されます標記法要の団体参拝事務があります。今後、団参委員会を組織して取り組んでまいります。心もとない組長であります。この団参事務を含め、組の職務を三役力合わせて取り組んでまいりますので、皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げます。挨拶といたします。

合掌

副組長 就任にあたって



副組長 (総務)

本證寺 平林 暁仁

昨年よりのコロナ禍の中にあつて、医療従事者をはじめ、さまざまな方に支えられながら過ごし、新たな年を迎えさせて頂いた日々であります。心より感謝申し上げます。

さて、このような大変な時期に、組長の手助けをいただいたように出来ようか？

正直、経験、知識、全ての物が劣っている私に何が出来るのかわからない中、次々と発生する新局面に変化をもつて対応する事が、いかに大変なことか、今までに無いリモートワークによる初の試みで、講演をやってみて知るさまざまな事例、そして新たな発想が生まれたりしながら、若い人の行動力に感銘しながら、触れた事の無い世界も知らされた気がします。

新型コロナが発生した当初は、デマや噂が飛び交い、それが新たな恐怖をあたえたり、新たな偏見に繋がる怖さを知らされました。そういう物に惑わされないようにする事が、いかに大切な事で、正しく恐れるとはまさにこの事だと思いました。組の活動もほとんどが中止に追い込まれました。中止する事がいつけん楽に思われがちですが、実際のところ全く逆で、それに付随する作業の多い事に驚かされました。

各寺院においても、ソーシャルディスタンスを取りながら、報恩講等の開催も延期、中止。マスクを着用、アルコール消毒・検温・換気等々あらゆる対策をされながら、今に至っていると思いますが、今だ収束のめどもつかない中、法事・葬儀等の法務も縮小、延期、中止とやむを得ない状況下です。

ワクチンさえ出来ればと思つてましたが、当たり前ですがワクチンは治す為の物ではなく、感染しないためのものであり、当面生活環境はスグには戻らないであろうと思われまします。これからも若い力と発想、先人の知恵をお借りしながら進んで行きたいと思ひます。

副組長など勤まるわけないだろうと思いつつ、微力ながら岩崎組長の手助けをさせて頂きながら、この未知なる局面を皆で無事健康で乗り切れるよう努力させて頂きます。一日も早く各部の活動が円滑に動ける日を望んでおります。

合掌



親鸞聖人御誕生
850
立教開宗
800

親鸞聖人御誕生 850 年
立教開宗 800 年

慶讃法要

法要期日 2023 (令和 5) 年

Joint Celebration 850th Anniversary of Shinran Shonin's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

【第 1 期】3/29 (水) ~ 4/3 (月)

【第 2 期】4/10 (月) ~ 4/15 (土)

【第 3 期】4/24 (月) ~ 4/29 (土)

【第 4 期】5/6 (土) ~ 5/11 (木)

【第 5 期】5/16 (火) ~ 5/21 (日)

二〇二〇年度をふりかえって

副組長 (会計)

立教寺 千葉 照映



組活動がほぼ停止したまま一年が過ぎてしまいました。誰も初めての事でありその間、懸命に医療、介護に従事されてきた方々に敬意を表する次第であります。

今号では私自身を振り返ってみたいと思います。

九年前、組長に任命され最も困惑したのは各会での挨拶でありました。

参加したことの無い総代会、壮年会、婦人会での挨拶、緊張の連続で中身の全くない挨拶しか出来ず、今振り返ってもお恥ずかしい限りでありました。そこで始めたのが「本願寺新報」を初め、仏婦連盟の機関誌「めぐみ」や本山・教務所から送られてくる広報誌には、なるべく目を通すようにしました。これは挨拶に使える情報と思えばメモをして、少しは気の利いた挨拶をしなければという思いで過ごしていました。

二期八年が終わわり、今年再び会計を仰せつかり、又一緒に取り組ませて頂いています。が、この一年間過ぎて気づいたのが活字に目を通す習慣が残っていることでありました。それまでは「宗報」の敬弔覧しか目を通す事の無かった私ですが、大切な習慣を頂いたという思いであります。

もう一つは、各研修会でいろんな話を聞かせてもらう中で、自分も何か新しいことに挑戦してみたいなという思いが湧いてきたことでもあります。

月忌参りでひと言法話をしているのを聞いて、自分も取り組んでみようかと思いました。が、決心するまでに時間がかかったのは否めません。

ちよつと還暦になる歳でありました。還暦を記念して「今月のお話し」を発行する事と、青年時代以来となるスキーの復活です。両方ともいつまで続くかわかりませんが、新しいことに挑戦する気持ちを大切に、そして趣味を楽しみながらをモットーに、前を向いて一歩一歩、歩んでいきたいと思っています。

副委員長を拝命して

実践運動十勝組委員会 副委員長 (副主任) 光明寺 臼井 教生



この度、実践運動十勝組委員会・副委員長を仰せつかりました音更町光明寺の臼井教生です。

二〇二〇年度より、教区の重点プロジェクトのテーマが「子ども・若者ご縁づくり」と掲げられました。十勝組においても教区のテーマに連動する形で、宗派のテーマである「貧困の克服にむけて子どもたちを育むために」と併せて、取り組ませていただいております。

副委員長 (主任) からの
教区活動の解説は次頁

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、人々が集う事が難しい状況の中、まさに手探りの状態での活動でした。その様な中で、密接にならない活動として、各ご寺院よりご提供いただいた

またまた、副組長の桃井です！

副組長 (庶務)

真光寺 桃井 直行



みなさんこんにちは。副組長の桃井直行です。思えば、副組長になりました。はや十四年経ったようですね。私の担当は庶務ですので、主な仕事は案内状の作成です。簡単に庶務を引き受けましたが、最初は本当に何をどうして良いか全く分かりませんでした。

そんな私を、一から鍛えて下さったのが白木幸久前々

組長でした。

研修会の企画・運営から、案内状の出し方、挨拶文の内容、言葉の使い方等々、全てをご指導下さいました。五年間有り難うございました。今もたいした成長はしていませんが、与えられた仕事は速やかに実行する事だけは、心がけております。

その後、千葉照映組長 (前組長) になり、私はまた副組長になりました。

千葉組長のもとで二期八年、同じく庶務を勤め、だんだん仕事に慣れてまいりました。この八年間は、よく三役の皆で酒を酌み交わしたことを覚えております。三役会という必ず懇親会付きでしたので、それも楽しみの一つでした。

さて、もう十三年やっただけで、そろそろ引退しようと思っていたのですが、岩崎教之現組長のもと、三度目の登板となりました。またまた副組長の庶務です。

最初に副組長を受けたときは若手 (三十代) の三役でしたが、あれから十四年・気がつけば五十を過ぎております。耳鳴りはするし、目はしょぼしょぼ・おしっこも勢いがあるやしません。だから、本当に新しい時代についていくのが「やっ」とです。

最近ではコロナ禍と云うこともあります。三役会も「web会議」で行われています。

便利なのは良いのですが、web会議だとみんなで「ちよつと一杯」がないので寂しいですね (昭和の男には、「web飲み会」は盛り上がりません)。一日もはやく新型コロナウイルスが収束し、穏やかな「日常生活」並びに「ちよつと一杯生活」が送れるようになることを念じております。

あと何年やれるかわかりませんが、『今日も私は、十勝組のためにパソコンに向かい続けております』。合掌

支援物資を、帯広市・芽室町・大樹町で『子ども食堂』を主催されているサークルおよび、東北の震災支援活動で縁が出来た、福島市のアイリス学園へ贈らせていただきました。

また、従来の様に沢山の方が集まる会議や研修会の開催が難しい中、一味の皆さんに支援をいただき、リモート形式による僧侶研修会や部会も開催出来ました。そして、青少年部においては、動画共有サイト『ユーチューブ』へ、子ども向けのご法話やクラフト (工作) の映像を定期的にアップし、新しい伝道の形として取組まれています。コロナ禍においては、今私達に出来ることを手探りながら実践活動した一年でありました。今後は、他の強化団体・各部とも連携を深め、テーマの実現を目指してまいります。まだまだ具体的な方策は定まっておりますが、更なる学びを通して模索してまいりますので、ご指導・ご協力の程をお願い申し上げます。合掌

ご挨拶・ご報告

実践運動十勝組委員会
副委員長 (主任) 妙法寺 石田 智秀



今年度は組の活動がほとんど出来ませんでした。教区でも、各専門部会を立ち上げ活動方針と実践を深く考える年となりました。

教区の重点プロジェクトは、宗派全体の「貧困対策」を内包しつつ、長期的に取り組むものとして「子ども・若者ご縁づくり」と致しました。

この理念は、子どもや若者に新たな「ご縁」を提供することを通して、浄土真宗の救いのよろこびが、広く、また世代を超えて拡大していくことを目指しています。そのために「対内部門」と「対外部門」とに分かれて活動します。

◇ 対内的な活動

教団 (教区・組) 内の人材育成と教育が主。

「若手僧侶のための『御同朋』学習プログラム実行部会」(次代を担う若手僧侶向け)
「北海道教区研修プログラム実行部会」(若手に限らない僧侶ご門徒、子どもが対象)

◇ 対外的な活動

教区・組が、教団の中だけではなく外部にもわかるように活動したり発信したりすることで、広く認知され、それをもって、子どもや若者にもご縁が広がることを目指します。

「保養支援実行部会 (災害アラート担当)」

保養は「ご縁」づくり。アラートは「ご縁」が途切れず継続することをめざします。

「論点整理実行部会 (いのち・へいわ担当)」

現代的・社会的な諸問題の論点を教団の考え方や立場から整理・検討し、どう向き合い取り組んでいくかを考えます。論点整理により対外的にも、また次世代へも「ご縁」が整いやすくなると考えられます。



十勝組ホームページ
QRコード

来年度以降は、以上のような北海道教区の方針と取り組みに従って、各教化団体と連携し、スリムで効率的、それでいて横断的な運営を心がけます。さらなるご指導・ご鞭撻とご協力を、よろしく願います。



実践運動十勝組委員会 各部からの活動報告

新型コロナウイルスに振り回された一年間！ 寺院の新たな可能性と方法を生み出す機会に。

総代会の活動について

総代会部 部長

光心寺 桃井 信之



昨年 (二〇二〇・令和二年) は、正月から新型コロナウイルスの感染が大きな話題となり、二月に入ると日本国内のみならず世界中で感染拡大が深刻な問題となりました。

このウィルスは感染力が極めて強く、しかも人を介して伝染するということから、世の中あらゆるイベント・行事が中止・延期を余儀なくされました。

十勝組総代会部の活動も同様で、二月に開催が予定されていた「十勝組総代会・壮年会 合同一泊研修会」、また毎年三月に開催している「十勝組総代会総会・研修会」、さらには夏期に予定されていた「Cブロック門徒総代研修会」など、予定されていた諸行事すべてが中止を余儀なくされました。

このようなことは前代未聞であり、とても残念なことでした。今年に入っても感染状況が改善したわけではなく、「十勝組総代会・壮年会 合同一泊研修会」は、二年連続中止となりました。コロナの早期収束による活動再開を願うばかりです。

仏教婦人会 活動報告

婦人会部 部長

法念寺 加藤 淳司



岩崎新組長体制により部長を任命され、鷲岡前部長より引き継ぎました。

昨年二月末より、日本国内にも新型コロナウイルスの感染が広がり、三密を避ける行動を余儀なくされることとなりました。そのため、役員会の開催なども難しく、それに伴い任期満了を迎えていた会長はじめ七名の役員の方々とが、旧役員全員に留任をいただきました。

総会の開催も無理と判断し「文書決議」のかたちとなりました。その中で二〇二〇年度の「一夜研修会 (四月三・四日)」「十勝組仏教婦人大会・若婦人研修会」についても中止の決定をさせていただきました。また、各支部においても支部大会の中止を決定されたことです。

永く続いてきた行事等を中止することは、まことに残念なことではありましたが、まずは健康を第一としての決断となりました。

来季に向けては、ワクチン接種などの希望も見えてきてはいますが、まだまだ予断を許される状態ではないと考えています。多くの方々に参加していただける状況になることを念願し、動ける状態になったときには、大会・研修会等を計画させていただければと思います。

壮年会の活動について

壮年会部 部長

玄誓寺 上本 周司



今年度は世界的な新型コロナウイルスの流行を受けて、その蔓延防止のための対策として様々な行事や活動を中止にせざるを得ない年となりました。どの部でも状況は同じかと思いますが、ほとんどの会員が高齢の方で構成される壮年会部では特に注意が必要な一年ではなかったかと思っています。

春先には、政府や北海道からの緊急事態宣言や集会の中止要請を受けて、いつもの形での総会を中止し、議案書を各所属寺や役員に郵送し内容を確認して承認のいただくという初めての形式での総会となりました。先の見通せない状況の中、役員の改選などが主な議案となりましたが、慣れない形での総会を皆様方のご理解ご協力のもと進めることができました。

十勝組仏教壮年会連盟の恒例行事としては、例年初夏に「親睦パークゴルフ大会」と、冬季に総代会との「合同一泊研修会」を予定しておりましたが、これらもやはり中止ということになってしまいました。どちらも毎年楽しみにされている会員の方が多く、中止の判断は大変苦しいところでしたが、社会情勢的に仕方ないことだったかと思っています。特に一泊研修会については、冬に全国的な感染急増が見られるまでは「二年連続での中止は何とか避けたい」ということで例年より縮小した形での開催も検討していたため、昨年に引き続き中止となってしまうことが大変残念でした。

ほとんどの行事が中止になる中、役員の皆様には、感染対策を行いながらも積極的に役員会に参加いただいて闊達な議論をいただき、とても有難いことだと思っています。来年度も今年度同様なかなか先の見通せない状況が続くかと思いますが、社会的な情勢を見極めつつ、感染症対策をしっかりと意識した上で、少しずつでも壮年会部の活動を行えるよう努力していきたいと思っています。

合掌

寺族婦人会 活動報告

寺族婦人会部 部長

照經寺 鷲岡 治子



寺族婦人会は、四月に春の研修会、六月に夏の研修会、十月に秋の研修会、三月に総会・新年会というのが一年の計画でありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、総会は四月以降に延期しましたが、それ以外はすべて中止となりました。

今年度は役員交代の年でしたが、いつもなら三月に引継ぎをするところ、やっと五月に引き継ぎができました。六月に一回目の役員会を開き、これからのことを話し合いました。そこでLINEで役員会のグループを作り、連絡やちよつとした話し合いができるようになりました。

その中で全ての研修会を中止にしたとしても、私たちに何かできることはないか？例えば秋の研修会に予定をしていたマスクケース作りを、『見本と作り方』を各寺に送付して自坊で個別に研修会をしてもらうてはどうか、という意見が出て、二回目の役員会でマスクケースを作り各寺院に一つ配布しました。

役員も知恵を借りなんとか会の活動を進めようと頑張りましたが、前例のないことばかりで、先が見えない不安と向き合いながら会を運営していくのは大変なことだと思えました。一日も早いコロナウイルスの収束を願い、来年度は楽しい研修会の様子を報告できれば良いと思っています。

合掌



YouTube

二〇二〇年度 活動報告

青少年・キッズサンガ部 部長

太子寺 皆川 隆信



青少年キッズサンガ部のメインとなる大きな活動は、十二月に行われる「十勝組青少年キッズサンガ部研修会」です。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルスが蔓延し、寒い時期である十二月は感染拡大が懸念されたため、苦渋の決断でしたが研修会を中止することとなりました。

ラインやズームで今年度の活動について部員やサポーターの皆さんと話し合いを行いました。私としてはユーチューブで研修会をやりたいのですが、様々な制限もあり、多くの子供たちの参加も難しいという理由で断念しました。ですが、ユーチューブに動画をあげて、皆さんに見ていただくことは可能だろうと考えました。

子供たちが見てもわかりやすい動画を目指して、子供法話や紙芝居、子供会ネタ、工作などの動画を各自で製作しました。制作した動画はラインにあげてみんなで確認しました。十一月十七日にズームにてオープニング動画を撮影しました。

そして、十二月一日にユーチューブで動画が視聴できるようになりました。青少年キッズサンガ部の部員やサポーターの皆さまのお陰で計画を達成することができました。ご尽力に深く感謝しております。

動画は一カ月に二本ほどアップしていきます。皆さま、どうかユーチューブで『とかちのさまちゃんねる』と検索し、ご門徒のお子さんたちなどに宣伝していただきますようご協力の程、お願いいたします。

二〇二二(令和三年)年度は青少年キッズサンガ部研修会を開催したいと思っていますが、ユーチューブの動画投稿はこれからも継続していきます。

今後とも皆さまのご理解、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。合掌



研修部 活動報告

初めてWebオンライン研修を開催！

研修部 部長

寿光寺 増山 孝伸



十勝組研修部では、令和二年年度の「実践運動推進 僧侶研修会」を八月二十六日午後一時より、常広別院講堂を会場として開催し、講師に大阪教区・自然寺 加藤 順教師（元伝道院講師・各地間法の会主宰）をお迎えして「念仏者の視座／御同朋 御同行の心」という講題で講演いただきました。

先生は長年伝道院講師を務めておられましたが、本山勤務を経て自坊に帰られた経歴を踏まえ、本願寺教団の今後の問題について数々話をしていただきました。

次に十月十九日午後一時より、「連研についての研修会」を同講堂で開催し、講師に連研ノートの実践に携わった協谷 暁融師（連研中央講師）と連研ノートの改訂版作成に携わった桃井 信之師（門信徒教化部 連研ノート検討部会委員）の組内のお二人に、「連研（話し合い法座）のねらいと実際に連研ノート改訂版 作成の経緯について」という講題でお話いただきました。

これまでの連研の流れとこれからの連研の展望など幅広い話を聞くことのできた有意義な研修会でした。

十勝組テレホン法話は、実践委員会みなさまのご協力により順調に進んでおります。原稿提出の一ヶ月前には依頼書でお知らせしますので、よろしくお願いいたします。

令和二年度は、新型コロナウイルスの影響のため活動判断の難しい年でした。年度はじめの組役員会で「活動自粛する」「どうやって活動できるのか考える事も大切ではありませんか？」など様々な意見が出ました。

岩崎組長より「僧侶研修会を、①研修会場での参加、②申し込み者WEB参加可能（同時配信）の二つの参加方法を取り入れ、密になりにくい形で僧侶研修会を試みて欲しい」と提案がありました。



研修会を安全に行うためにはWebしかないと考え、提案を受け入れました。担当者が「Web研修チラシ」を作成してくれた事、一味会の前日準備・Webリハーサル・当日協力により研修会の様子をWeb参加者（同時配信）に配信する事ができ、円滑に研修会が進みました。

様々な課題も残りましたが、多くの皆さまのご協力により、無事に活動する事ができた一年でした。 合掌



← 講義の概要は次頁掲載

オンライン研修の実施と課題

研修部

玄誓寺 上本 周作



新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、十勝組としてだけではなく各寺院においても、これまでの活動が制限されたり、変化を求められました。

八月に開催した僧侶研修会も、開催の有無を含めて組三役・研修部含め協議を重ねた結果、現地とオンラインを併用する形式に。

十勝組にとってもオンラインを用いての研修会は初めてということもあり、マニュアル作成、操作方法・設定に対する事前準備に加えて、研修会当日に出てきた課題もあり、九月にも再度併修開催しましたが、まだまだ改良していく点は多いのが現状です。

事前準備に関しては、オンラインの利点である移動を伴わず参加できる点も、操作に対する不安から参加を見送る方も潜在的にはいる関係から、参加者増を目指す場合、一味会と連携を取りながら操作に対する不安を少しでも払拭していける対策が求められているかもしれません。研修会そのものではなく、「ZOOM操作の練習会」の様な機会を新年度では設けていければと思います。

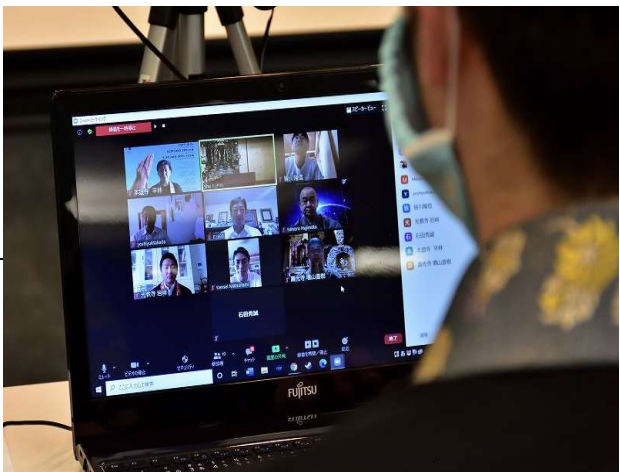
研修会当日の課題としては、音声の問題や、講師が参加者の顔が見えない点もありましたが、マイクの設定場所が改善できたり、今後はプロジェクトールを使用して参加者の顔が見えやすい対策を講じていけることでクリアできることが判明。



以上のように、課題は見えるものの、開催したからこそ見えてくる課題や改善点であり、オンラインでの研修会の定着を目指していきたいと思っています。

昨今の状況を考えてみても、新型コロナウイルスの収束が見えない中、オンラインに対応していく必要性は急務であり、同時に対応できない場合への応対も拡充していくことを次年度への実施課題とさせていただきます。

また、課題をクリアしていくためには、十勝組内各寺院のみならず、ご協力が必要不可欠となります。未開拓部分を開拓していく中で、皆様にはご迷惑をおかけしますが、どうかご理解、ご協力の程宜しくお願い致します。 合掌



特集 連研(話し合い法座)のねらいと実際

「連研ノートEと改訂版」について

連研ノート検討部会委員
得度習礼・教師教修 教育主幹 桃井 信之

『連研ノートE改訂版』は、本年(二〇二一年)三月三十一日発行されました。

このたびの改訂は、『ノートE』そのものを換骨奪胎させるといったような大きな変更を目的とするのではなく、専如門主伝灯奉告法要の折に出された「親教・「念仏者の生き方」を『ノートE』に反映させて、「話し合い法座」のみではなく、仏教や浄土真宗の教え、教えに生きる者のあり方(生き方)について基礎的な学びができるような連研にして欲しい、という総局の要請に基づいたものであります。

現在宗門が運動(実践運動)を推進するにあたって、その依拠としているのがこの「親教」「念仏者の生き方」です。宗会でもその方向性は確認されており、その内容の妥当性は勸学寮も認めています。「親教」「念仏者の生き方」は、専如門主の門主就任時の「所信表明」にあたり、その内容の方向性は、基本的に即如前門を踏襲しているといえます。昨年度より採用されている得度・教師の新カリキュラムでも「念仏者の生き方」が中心に据えられており、得度・教師におけるすべての学びは、何らかの形で「念仏者の生き方」と関わったものとなっています。

『ノートE改訂版』では、『ノートE』を生み出した精神を損なうことなく、時代状況の変化・推移に鑑みて、話し合い法座のテーマを「マイナーチェンジ」しました。「念仏者の生き方」というテーマも最終十二回目に入れて連研のまとめとしています。

また、連研そのもの(ノートではなく)の新カリキュラムにも、三〇分程度「基礎的学習の時間」を設定しています。これは「念仏者の生き方」を通して仏教や真宗の基礎を学ぶことを目的とした時間です。

「念仏者の生き方」は、優しい言葉で表現されているものの、その内容は革新的・画期的ともいえるもので、そこには宗門への危機意識や、困難な現況を乗り越えて新たな宗門の歩みを進めたいという新門主の気概が感じられます。結びの文章から、宗門の目標である「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現」につとめるといった「実践運動」を推し進めるための「親教であることが理解されます。

私としては、「念仏者の生き方」が反映された『ノートE改訂版』が、一般寺院における研修会でも使用できるようなテキストとして、もう一歩踏み込んだ改訂がなされることを望んでいます。まずは各寺住職が「これはよい」と評価し、自坊での教化に使用する。そうすると、住職一人だけでこの内容のすべてを学び「門徒に対応していくのは、しんどい」と気づく。それが、真の意味での連研の開催に繋がっていくと思うからです。

※参考「宗報」二〇二〇年七月号P二三頁「連研ノートE改訂について」 楠 眞

「連研」は運動

あるべき教団をめざして とともに問い、聞き、語る

連研中央講師・教区連研協議会部員 脇谷 暁融

「連研」は、一九八五年から始まり、すでに四〇年近くの歴史があります。その間、同朋運動と門信徒会運動が一本化され基幹運動となり、二〇二二年からは従来の目的が名称に変更された「御同朋の社会をめざす運動(実践運動)」が展開されています。

その根幹には、たんに一方通行であった法座の形態から話し合いの場を持つことで、さまざまな悩み苦しみをともにし、教えが真実のよりどころとなることをめざしています。

連研は、教えから一人一人が問われる中で、私と社会の姿にめざめ、僧侶・門徒とともに運動を推進していく「門徒推進員」の養成を目的としています。同一参加者を対象に「十二のテーマ」を話し合い、約二年間開催するので「連統研修会Ⅱ連研」と称します。

現実にある課題から教団の過去に向き合い、お念仏とともに自らの姿を問い、「御同朋」として生きていくあり方(Ⅱ実践運動)を受講者・スタッフともに進めて行きます。

十勝組では八年前に「第九期連研」が修了後、「第十期連研」募集で休止しています。

すでに刊行された上記「連研ノートE(改訂版)」を基本に、従来からある「連研ノートEスタッフノート」(今春には「連研ノートEスタッフノート(別冊)」が補充されます。また、未開催組に向けては「連研のすすめ」が発刊されます。十勝組でもこれら四冊を教材に新たな学びを続けていく必要があります。

十勝組・帯広別院テレホン法話 当番担当表
＜令和3年度＞ 2021/4～2022/3

部会		担当		期日	
部会	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
部会	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
部会	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
部会	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会
	部会	部会	部会	部会	部会

19 帯広別院 輪番 1 月 1 日 ～ 1 月 15 日 広報部
20 妙覚寺 脇谷 2 月 1 日 ～ 2 月 15 日 〃
21 新泉寺 高久 2 月 16 日 ～ 2 月 28 日 〃
22 壽光寺 増山 3 月 1 日 ～ 3 月 15 日 〃
23 顕勝寺 芳嶋 3 月 16 日 ～ 3 月 31 日 〃
24 光教寺 岩崎 3 月 16 日 ～ 3 月 31 日 〃

・この表にもとずき、令和3年度のテレホン法話担当者を
・別院にて直接録音(操作は容易)するか、または原稿を別院
担当者までお渡し頂ければ、スタッフ・別院職員が録音
致します。録音依頼は 7 日前には原稿をお届け下さい。

コロナ禍における活動

一味会 会長

浄信寺 窪寺 貴洋



この一年は新型コロナウイルス感染拡大により、日常生活や法務はもちろんのこと、多方面において影響がありました。

一味会の活動も例外ではなく、毎年年度始めに行われ一味会の一年間の計画を共有し合う総会も、緊急事態宣言を受けて開催が危ぶまれました。しかし、三役で連絡を密に取りながら、今年の活動方針等をオンラインで話し合った結果、「総会は書面議決（ハガキによる返信）形式」を採用し、無事に今年度の活動が承認されました。

また、決議の中で、今年度の活動は「休止」となったものの、状況を見極めながら、オンライン等を使用して活動する案が含まれておりました。その点を受け、十一月二十五日には、報恩講がひと段落した十勝組内の寺院活動状況を共有すべく、一味会史上初となるオンラインにて定例会を開催。各寺の取り組みや対策等を話し合い、大切な点が共有出来たことはもちろんのこと、オンライン活用の道が開けたことも今後の活動にとって大きな可能性を感じました。

今年度より岩崎組長新体制となり、研修部内に一味会が所属したことを受け、八月、十月の研修会においても、現地・オンラインでの協力を参加をさせて頂きました。まだまだコロナの影響は落ち着きませんが、一味会の活動は各寺院様のご理解、ご協力あつてのことと思っております。これからも活動をより一層盛り上げてまいりたいと思っておりますので引き続きよろしくお願いいたします。

合掌

ビハール活動全国集会（オンライン）に参加して

ビハール十勝 大正寺 高田 芳行



本年一月三十日、午後一時から四時まで宗派主催の標記研修会が『願わねばならぬ』の物語を紡ごうと悲しみの中にある人びとに、ぬくもりを届けようとするテーマに開催され、私も自宅から参加しました。京都の間の法会館より配信され全国より三〇五名の方々が参加されました。

基調講演、講師は京都大学名誉教授やまだようこ師、講題は『喪失の語り、しなやかに生きる』でした。

- 一、「死」は克服しなくてもいい。「死者」とともに生きていく生き方もある。
- 二、ものの語り（ナラティブ）とは、経験の編集作業。
- 三、文化のものの語りや、イマジネーションの力で、ものの語りを語り直し、ものの見方を転換（ターン）してみよう。

「人生において、取り返しがつかないマイナスの出来事（病気、事故、災害、失業、死、喪失など）は、多かれ少なかれ誰にでも起こる。」

コロナ禍にあって

七味会 会長

浄信寺 窪寺 彩子



慈光照護のもとみなさま方には、益々念仏相續大慶に存じます。日頃は七味会（若坊守会）にご理解とご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

この度の新型コロナウイルス感染拡大により自粛が続きます。先の見えない毎日に不安を抱いておられる事と思います。また、生活に影響を受けられているみなさまには心よりお見舞いを申し上げます。

世界中が自粛生活を強いられる中、七味会においても全ての活動を中止とした一年となりました。今後の活動についても、新型コロナウイルス感染症が終息するまでは無期限で停止することが決定しておりますので、「会計監査」「本年度予算・事業計画」につきましては各位に書面を郵送し、SNS上で監査、編成、立案を行うこととなりました。コロナ禍の影響で新年度は不安な船出となりましたが、みなさまのご意見やお力をお借りして運営してまいります。

暗いニュースばかりが溢れている世の中ではありますが、七味会では明るい話題も溢れております。若院様方の婚礼ラッシュが数年前より、その後、現在に至るまで、ベビラッシュが続いております。この一年の間にも、新たな命が三名、今後数ヶ月中には更に二名の命が誕生します。一日でも早くこの状況が終息し、かわいい子供たちに会える事を願うばかりです。

このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されているみなさまに心よりお見舞い申し上げます。さらに、医療従事者の方々に深く敬意と感謝を表します。

まだまだ予断の許さない状況が続く、不安やストレスの多い中を過ごしていかねばなりません。その中でも私たちにできることを考え、少しでも実行できるようにと思っております。

合掌

その出来事を変えることはできないが、ものの語りは変えられる。不幸な経験をプラスに変えて生きる力にする。レジエンス（回復力、復活力、弾力性、しなやかさ）を大切に生きることを講演していただきました。

「私たちは経験したつらい出来事を変えることはできないが、悲しみをプラスに変えるへしなやかな復活力をもっている。その力を引き出すためには、喪失経験を互いに語り合い、多様なへもの語りを知ること、自らの経験を異なる視点で語り直し、見方を変えることが重要」と語られました。

講演の後のシンポジウムでは、「従来のカウンセリングは『受容・傾聴・共感』が基本だが、もっと積極的にお互いに語り合う場を作ること重要になる。きれいな言葉、概念化した言葉ではなく、具体的な話をすることが大切」など講師やパネラーと共にテーマを深めることができました。

『ビハール活動の今後に向けて』では、実行委員会の木曾隆副委員長より「コロナ禍の中、厳しい状況だが、このシンポジウムでの学びをこれからの活動に生かして地道なビハール活動を継続してほしい」と提言していただきました。

本来ならば、全国のビハール活動をされている多くの仲間達と活動の喜びや悩みなどを語り合うところですが、次回までお預けです。今はビハールについて、じっくり考えたり学び直したりする時間と捉え、ビハール活動の裾野を拡げて行きたいと思った全国集会でした。

「ビハークラ十勝」では

今年度は施設（特別養護老人ホーム 帯広慈恵の里）に赴いての活動はできませんでしたが、専用掲示板を作成して施設に届け、利用者に「読んでもらいたい言葉（A3版）」を二回お届けしました。次年度もビハークラ十勝の会員が担当し、月一回の頻度で、「読んでもらいたい言葉」を施設にお届けします。他に次年度から『ビハークラの集い』のDVDを作成し、動画で利用者の方々に「ひとりじゃなかもん」の思いをお届けしたいと思っています。

第一一二回定期教区会 開催報告

十勝組 教区会議員 大正寺 高田 芳行

令和三年三月十二日、十三時三〇分～十六時一〇分まで教化センター札幌別院一階ホールにおいて、第一一二回定期教区会が開催されました。会場出席が二十名、オンライン出席が五名の合計二十五名。私はオンラインで出席しました。（欠席議員七名）勤行の後、教務所長の所信表明「：来年度の教区賦課金は本年度の補正予算と同額の一点当たり三、三二五円で計上いたしました。：」があり、野口宗英議長（札幌組）の開会宣言。財務議決議案は次の通り。

- 第一号 一〇二二（令和三）年度 一般会計 北海道教区歳計予算（案）
＜予算総額＞ 八四、六一五、〇〇〇円
- 第二号 一〇二二（令和三）年度 特別会計 北海道教区教学振興資金歳計予算（案）
＜予算総額＞ 一七、九六〇、〇〇〇円
- 第三号 一〇二二（令和三）年度 特別会計 北海道教区退職積立金歳計予算（案）
＜予算総額＞ 九、四三〇、五八二円
- 第四号 一〇二二（令和三）年度 特別会計 北海道教区地方災害対策歳計予算（案）
＜予算総額＞ 二、二二二、二〇四円
- 第五号 一〇二二（令和三）年度 特別会計 北海道教区平衡資金歳計予算（案）
＜予算総額＞ 一〇、五二〇、四四八円
- 第六号 一〇二二（令和三）年度 特別会計 北海道教区親鸞聖人御誕生八五〇年
立教開宗八〇〇年慶讃法要事務所会計歳計予算（案）
＜予算総額＞ 八一〇、〇〇〇円
- 第七号 一〇二二（令和三）年度 一般会計 北海道教区歳計予算補正（案）
＜予算総額＞ 八六、二五〇、〇〇〇円

事務局より第七号の補正予算について説明後、第一号から第六号議案までの説明があり、質問二件に対する各回答があり、意見一件を受けました。その後、議長が第一号から第七号議案までを採決し、満場一致で可決されました。

協議事項では、次年度よりの常備会員と補充員が選出され、次回の常備会は七月七日十四時より第一回臨時教区会は七月二十七日十三時三〇分より教化センター札幌別院で開催されることが報告されました。他に従来三千円であった会議手当をオンライン出席の場合には次年度より千五百円としたいとの提案がありました。

その他の所で私は「宗派は財政難であるため、ダウンサイジング・スリム化していくと聞いている。その上で、教区への権限移譲される旨が宗派常務委員会決定されている。先般の常備会での話では、教務所職員が職務で残業しているが手当等はついていない現状である。その中で宗派の職務が移譲されてくるとなると、教務所も大変厳しいこととなる。次年度教区で立ち上げ予定の将来を検討する部門（名称未定の諮問機関としての会議体）でそのあたりにつても十分検討していただきたいと思う」との意見を申し上げました。

最後に第三一九回定期宗会の報告を宗会議員の亀井義昭議員・牧田宏議員の両氏からいただき全日程を終了しました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止にご協力をお願いします

感染リスクを高めやすい場面に
注意し、対策を徹底しましょう！

感染リスクを高めやすい場面

マスク
なし

換気が
悪い

人と人との
距離が近い

長時間
滞在

1

飲酒を伴う場面



お酒が進んで感染防止の
ガードが下がってしまう

2

仕事後や休憩時間



ホッととして、マスクを
外して会話してしまう

3

集団生活



常に行動を共にしている
ため広がりやすい

4

激しい呼吸を伴う運動



換気の悪い閉鎖空間では
ウイルスが滞留しやすい

5

屋外での活動の前後



車での移動や食事中など
に三密が生じやすい

編集後記

新たな団体制発足から、あっという間に二〇二〇年度が過ぎて行きます。新型コロナウイルス感染症という暗黒を模索しながら、各部活動は延期・中止を余儀なくされ、それでも新たな方策と可能性を探りながら進めていくしかありません。各部活動の休止が継続し、今号が作成できるか憂慮しましたが、『八頁・圧縮版』で編集を終えました。一年間積み重ねた知見で、マスク、消毒、換気などの徹底で、ある程度は回避できることがわかってきました。今年度は九割以上の寺院が休座した各法要・法座を少しでも稼働していく必要に迫られています。「教え」は人を介し、その声と場を体現することによって伝わります。